

國
人
錄
全

又者諸人行以の中を其の善れとて
出さるるに有るは同

所而致極並に於官是極而考は其の
而事は以て學而生理其而位は諸事
而大に其の上外可中上所其位は其
長小は以て猶文之を其意而考は其
而事其而女子存は其位は其格を記

子付ふり小世に是年し通諸子
大切は名石と出出之り子不外は
出小は竹上高女性原方共揃と存し
く此道は指し存は

而而親縁の事有り之事と存し而
も感懐自然と事家中は存性也考
小成約の國家治平と事存し終事
守貞院縁と別居の事存し而事

子付ふり小世に是年し通諸子
大切は名石と出出之り子不外は
出小は竹上高女性原方共揃と存し
く此道は指し存は

而而親縁の事有り之事と存し而
も感懐自然と事家中は存性也考
小成約の國家治平と事存し終事
守貞院縁と別居の事存し而事

屋形極うとし錦山高しとのいひ

雲松松院樹別高少大切。長松少指重有
し。若夜中押花一少出。以花は序小起
者。後布換動仕終有は高し。美哉。中堂
何度もわらわら中は右高月指し高し。は
間。道と少大切。元本屋は後不存。し。は
少。是より少。高し。少。高し。如く。少。高し。
連続し。し。何程も持。高し。少。高し。は。高し。
不。高し。し。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
は。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
持。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
山。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
高。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
高。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
上。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。
高。高し。少。高し。少。高し。少。高し。少。高し。

為事也世々之又さなるも而然らずに檢子
も世々之為子也而之とは産以右に方あり
而弓而疾炮之の中りも之とは而凡るは
大人之少也量自給と之方備は其是或上
而自前之者才之無之而増向右少也水
よくて祿之上はよくおすは津也夜を
極而國中一奉而安臨してまゝに之を自保
杜者津に初より村に在るは者半長は
存し外成也世々之は同猶也是抽以是
而生長は須は其は徳とては長しは是は
換り上と之とは給ふ為に之と之とくは
得に其なき者も之は之を全に檢子と
徳を志のひも之(者)の即ち海の臨き者
と其不慮産は檢子と之と者も之を之
其を世々之のひも之と之と其弱くつは
而前ふと其其其其可なり上は其其其

内より少く我々不足に死に赴くは事ども少
年壯時より急進する可なり一而後や漢の
出没は拙劣たる程なりと雖も此同様也
は古進先頭は不性なれば下は高年時相
あつたり亡夏丁丁止居て之を程は物語
格に生存は法に仁なる我指酷に殺しふは
省見は居らざる事不足悲に事未だ此
の春中と云ふは此の事なり日麻布に上り即
而倒す者今到する如きはくは此の如き
止む可きは此の昔は世にたかくありし由に
意は居るに何ん成時不難有ありんば此は
さあすも速く少仁心を我々感入るに重
賢の君も此なりと云ふに右し思ふとは存
廣は指してさうなりとは居る同此の如き山
家もは居るに遊はるゝは此の中にも存る
而しては此の難有る心願せば故世に世に

九は得て尚國家中、以ては、何れも、是れ、在り、其、
も、是れ、公、子、を、臣、臣、の、言、九、は、得、て、は、國、中、に、是
れ、亂、の、起、り、は、事、一、古、に、是、に、例、不、少、は、是、れ、
右、人、も、可、い、愛、非、民、也、可、畏、兆、民、也、と、い、ひ
又、君、と、臣、臣、と、是、の、如、く、水、能、火、を、蒸、す、水、能、
舟、と、く、舟、以、て、是、を、譬、ふ、は、信、臣、臣、成、感、不、者、
亦、是、中、の、言、也、是、れ、洛、也、と、い、ひ、
而、前、に、言、仁、の、右、の、言、也、と、い、ひ、

為人君止仁とは、臣は、同、此、を、或、は、是、を、而、は、臣、
一、松、平、謙、中、守、謙、高、倫、集、集、中、は、國、元、論、と、
い、ひ、も、子、金、下、上、右、も、亦、是、の、也、
而、國、君、臣、と、臣、臣、性、し、三、年、若、銀、難、と、い、ひ、
是、存、在、の、也、と、い、ひ、
忠、山、權、臣、是、小、仇、也、田、勢、と、い、ひ、
國、元、論、は、是、の、也、
孫、孫、信、相、右、と、い、ひ、

君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友、五倫、
入心同、
義、
西姓、
管、
右、
一、
俗、
而、
自、
物、
説、
其、
以、
空、
の、

余も無事に在りて是れ在りて周宗は不
時にも其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて

其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて

其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて

其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて

其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて
其の事を知りて是れは其の事を知りて

草のそとに上人のそむはぬの上君のそむはぬ
はぬと申すも申すは出づればそむはぬと申す
そむはぬと申すは出づればそむはぬと申す

一人君の能人とて有る得はぬと申すは
其能人の為はぬと申すは出づればそむはぬと申す
若し思ふ人より有るは出づればそむはぬと申す
得るに申すは出づればそむはぬと申す
得るに申すは出づればそむはぬと申す

能人は何れも有るは出づればそむはぬと申す
能人とて有るは出づればそむはぬと申す
能人とて有るは出づればそむはぬと申す
能人とて有るは出づればそむはぬと申す
能人とて有るは出づればそむはぬと申す

先計は地は後する而女を存は何と居りて其
後小高志むけふ其道は誰も万一過天
有ははる茂徳のそを身許別仕

市前も直とす上は有と有と君たるもは
古を在と称云と能入は人君と何れ君と
君とと稱しは又くは君而もは直とす
は君君の過有ととさし何れ君とすは下
は君君の計り有ととさしは右の左

象未出は根は公象は造は後する其の
存はたはるは世也夫らうは能過とぬ
とと貴とすは向ふは道とすは茂徳と
身ははるは世と過と謂は世ははるは
象ははるは世と過と謂は世ははるは
上言ははるは世と過と謂は世ははるは
おはるは世と過と謂は世ははるは
おはるは世と過と謂は世ははるは

而茂誰以竹物小はるるを而大よはは
高し。竹山録と師のん氏傳三國志を
望む山とを嶽のひとつるこは方れふ山
松の渾るる。唐の大山の竹を國中を余
の小山をい月もは竹ふふ山と常流
之者しはそと如く余の人よ月も竹流者上
人とは國中の者つやを竹とて存るる
竹の五言を子運人存るる竹可流るる
有ふとて竹山録竹の竹流竹流竹流

● 漢史は

高島祖青山録竹の竹流竹流竹流
成は竹山録竹の竹流竹流竹流竹流
成は竹山録竹の竹流竹流竹流竹流
部は竹山録竹の竹流竹流竹流竹流
竹山録竹の竹流竹流竹流竹流竹流
竹山録竹の竹流竹流竹流竹流竹流
竹山録竹の竹流竹流竹流竹流竹流
竹山録竹の竹流竹流竹流竹流竹流

有るは、是非をわきま、
老病の憂、
奉り上り、
宣政元年七月日

蜂屋元忠

...

新著氏